

学校だより

我武者羅

上野原西中学校 学校通信

第 6 号

令和 4 年 9 月 29 日 (木)

文責 校長 長谷川 英信

TEL 62-3103

「第14回若葉祭」 一人一人が大きな成果を得て無事終えることができました！

9月10日(土)に「第14回若葉祭」が開催されました。コロナ禍の中、県内の感染状況もなかなか減少せず、本来なら保護者全員の方々に来校していただき生徒達の頑張りを、褒めていただきたかったのですが、陽性の生徒も出ている中で、大変申し訳なかったのですが3年生の保護者、ご家庭で1名に限らせていただきました。見学できなかった保護者の皆様方には、大変申し訳ありませんでした。現在、上野原西中学校のホームページにて写真を掲載してあります。ネット上ということもありアップでの写真はありませんが、生徒達の頑張っている様子が少しでも分かっていただけでしたら幸いです。学園祭は、生徒会主催行事ということで、生徒達が、自分たちの手で創り上げてきました。テーマ、内容、競技種目、ルールなど全てに渡って実行委員会を組織し、生徒会執行部が中心となって準備を進めてきました。今年度のテーマは「Be together as one」(心を一つに絆を深める)。学級、学年、縦割りブロック、全校と仲間意識を持って団結し心一つに絆を深めたいという思いがあるようです。この思いを達成するために、今年度新たにクラス発表が新企画として取り入れられました。生徒達は、コロナ禍だからこそこれまでと違った特別な自分たちだけの若葉祭に強くこだわっていました。取組期間は2週間程度でしたが中身の濃い充実した取組をしていました。学園祭への思いは、統合前からの多くの先輩の思いも受け継がれ、西中若葉祭と名付けられたこと、巖中の「若松祭」、平和中の「若鳩祭」、島田中の「若鮎祭」の名前こそなくなりましたが、伝統はしっかり君たちが受け継ぐこと、上級生は後輩の心にしっかり熱い思いを伝えることなどについて当日学校長として話をさせていただきました。仲間の素晴らしさ、心を一つにできたときの喜びは、体験しなくては味わえない、学べないことです。中学校生活でつかみ取り、かけがえのない人生の宝物にしてもらいたいものです。



中学校生活で学ぶこと！集団生活の大切さ、相手を思いやる心、まだまだ沢山あります！

中学校では、授業を通して学力を身につけることと同様に、将来生徒達が社会に出て適応できるための力をしっかり養うことにも力を入れて取り組んでいます。中学校には、主に教師が生徒の育成を目指し企画する学校行事と生徒達自身が学校生活をよりよくするために企画する生徒会行事があります。行事を通して生徒達に社会を生き抜く力を育成すべく取り組んでいます。ですので、約束を守ること、相手の存在を認め互いに認め合う努力をすること、自分の思いをしっかりと伝え、相手の思いもしっかり聞くこと、仲間を大切にし自らを律する心が持てることなど、3年かけて何度も何度も教師は生徒との関わりの中で伝え、育成しようとしています。生徒は、中学校で思春期を迎え、心と体の急激な成長でバランスを崩し感情のコントロールが難しい時期となります。また、小学校のうちは「自分が」という考えが強く他を受け入れられない場面が多くあったのが、思春期後半では集団の中で「みんなが」という思いが芽生え、相手を素直に認められるようになってきます。その成長を促すためにも学校での取組は重要な意味合いを持ちます。ですから、生徒の発達段階で成長の様子が違ってきます。1年生と3年生とでは、行事が終わった感想を聞くとだいぶ違います。そのため学年ごとで教師が行事のねらいを確認し学年職員一丸となって取り組み、その成果の考察をして次につなげる話し合いをしています。今回の学園祭では、学級を単位として学年、ブロックと集団への所属感を芽生えさせ、そこからみんなの思いを受けて自分が何をすべきなのか考えさせ、行動に結びつける取組でした。学級の発表では、「我がクラスらしさ」にこだわり、他学級とは違い特別な思いでそこに誇りを持って頑張っていました。学級対抗競技では「息をそろえ」「心をそろえ」思いを一つにして取組めていました。ブロック競技では、先輩の思いを受け頑張り認めてもらう姿が伺えました。生徒にとって思い通りにいかなかったことがあったことも大切なことなのです。自分の心の中で納得する過程も重要なことなのです。生徒達の「楽しかった」の言葉には言葉の意味以上に内面の成長があります。生徒達は、すでに次の取組を始めています。教師も次に向け準備を進めています。生徒の3年間の成長に向けた教育は、教師にとってとても楽しみで、やりがいのあるものなのです。学園祭では、いい思いをさせていただきました。

若葉祭ではコロナの感染予防のために歌えなかった全校合唱、

2学期後半に取組を再開する予定です。全校合唱で心一つに！

生徒達が企画した若葉祭。学校では、上野原市のコロナの感染状況を考え全校合唱の取組を中断し、再度状況が良くなってきたところで再開する判断をさせていただきました。保護者の方々の中には楽しみにしていた方もいたと思いますが、申し訳ありませんでした。学校の教育活動の中においても、合唱の取組は大きな役割を担っています。合唱を上手く歌うというよりは、全校で創り上げるその過程が重要で、生徒で組織を作り、練習計画を立て、生徒が運営し、上級生が下級生の面倒を見る。集団の力を育成するためには大切な取組です。今回、「糸」という曲を歌います。学園祭のテーマにちなんで、実行委員会が提案した3曲の中から投票で決まりました。投票も、各自の持つパソコンから投票しました。上野原西中学校はこれまで合唱活動に力を入れてきました。以前は有志で募った合唱団で県で金賞を取ったこともあります。コロナ禍になる前まで、学級合唱で発表会もありました。ここ数年、十分な活動ができていませんが、西中らしい合唱を創り、後輩に受け継がれる伝統を新たに作ってもらいたいと考えています。